

デリーまたはロンドンデリー

吉田 眞人

去る5月5日英国で地方選挙が行われた。投票日は木曜日と法律で決められている。何故か？その昔、週給の支払日が金曜日で、その前日なら酒を飲みに行くカネもなく、しらぶで冷静に投票できるからだ、といわれている。

北アイルランド自治議会選挙では、シン・フェイン党が第一党となり、英メディアは「歴史的な勝利」と報道した。同党は、北アイルランド紛争でテロ活動を行った過激派組織IRA（アイルランド共和国軍）の元政治部門で、アイルランド共和国への復帰が最重要公約である。自治議会の最大勢力となるのは史上初で、1998年のベルファスト合意に基づき、第一首相を出すこととなる。但し、90議席中の27議席を占める少数与党で、公約実現には道が遠い。

IRAや北アイルランドと聞くと、懐かしい思いがするのは不思議だ。昔、丁度紛争がたけなわの時期に英国に駐在した。親英派とIRAによる北アイルランドでの数々の衝突以外にも、ロンドンや近郊でも大きな事件が起きている。中でも、1983年のハロッズ百貨店脇での爆弾事件や、翌年のブライトンでの保守党大会時のサッチャー首相を狙った爆破事件は、IRAの名前と共に強く印象に残っている。

また、数年前に知人から聞いた話も興味深い。彼女の娘さんは親の英国勤務に伴い中学時代に渡英し、そのまま英国に残り大学を卒業しロンドンに在住している。あるとき北アイルランド出身のボーイフレンドを紹介しに日本に来るといふ。以下は母と娘の会話である。

「ママ、今度彼を紹介するけれど、会話には気をつけてね」「どういふこと？」「彼の国元の話になったときに、間違ってもロンドンデリーなんて言ったら駄目よ。彼、怒り出すから」「……ではなんて言ったらいいの？」「当然デリーでしょー！」「……」

尚、現在シン・フェイン党は武装路線とは距離を置いている。北アイルランドとアイルランド共和国の国境問題がこじれ、欧州の西端で混乱が起きないよう祈るばかりだ。

(2022年5月26日)



↑ 北アイルランドの道路標識



↑ ベルファスト市内の
“平和の壁”



↑ アイルランドの
道路標識

